

JR 総連

OB連絡会情報

2018年6月29日 第34号

発行人 大熊 勝明

編集人 伊藤 義男

全日本鉄道労働組合連合 (JR 総連)
OB 連絡会

〒141-0031

東京都品川区西五反田3-2-13
目黒さつきビル3F

第3回幹事会で 当面する取り組みを意志統一！

「JR東労組を憂う会」は、「組織破壊」と確認

小雨が降る6月20日13時より、東京の目黒さつきビル内のJR総連会議室で2月以来の「第3回幹事会」が開催されました。

この幹事会にはJR総連OB連絡会の7名の全役員その他、JR総連からは永島OB担当と田城副委員長と熊合組織・共闘部長が参加しました。

幹事会では、2月以降の取り組みの経過報告と当面する取り組みを確認した後、JR総連から求められていた「憂う会」について議論をしました。

2月以来4ヶ月ぶりに開催された第3回幹事会は、13時より大熊会長の挨拶と進行が始まり、JR総連第34回定期大会で新しく就任した田城副委員長より、「JR総連大会の中で求められた『憂う会』に対する見解についてしっかりと議論して欲しい」と挨拶がありました。

幹事会では、まず2月以降の日本退職者連合の取り組み経過を確認した後、JR総連第34回定期大会の報告が永島OB担当よりありました。その後北海道労組OB会、東労組OB会、東海労OB会の各定期総会の報告がそれぞれの役員からありました。

その後JR総連OB連絡会としての当面の取り組みとして、日本退職者連合の第22回定期総会の参加者の確認を行いました。また引き続き9月に開催する「拡大幹事会」

と「全国高齢者集会」に向けての議論を行いました。議論の中では来年以降の「拡大幹事会」の持ち方については財政面も配慮して、「一日開催」等も検討してはどうかという意見もありました。

幹事会では、予定していた全ての議題を確認した後、JR総連第34回大会で「JR東労組を憂う会」通信に対するJR総連OB連絡会の見解が求められていた件について議論を行いました。

討論では各単組OB会から選出されている全役員で議論し、OB会が現役に対して組織を破壊する行為は断じてあってはならない行為であり、JR総連OB連絡会も「憂う会」はJR総連及びJR東労組への組織破壊と確認しました。

JR総連第34回定期大会報告

6月3〜4日の2日間の日程で「JR総連第34回定期大会」が都内の「ホテルイースト21東京」で開催されました。

来賓には連合の内田副事務局長、交連労協の住野議長、政党からは立憲民主党の阿久津幹事長代理、国民民主党の小宮



JR総連第34回定期大会で挨拶する榎本委員長

山企業団体局長、9各連からは常石井同代表等々大勢の方々が参加しました。JR総連OB連絡会からは、今年はずなで大熊会長と伊藤事務局長が参加しました。

主催者の榎本委員長は、「東労組の大量脱退の原因は、会社による不当労働行為の指示があった」とはいえ、これまでの東労組指導部における運動上、組織上における欠陥が大きき要因だ」と指摘し、今後のJR総連運動への影響を述べました。

大会にはJR総連役員や来賓の他に、JR総連加盟9単組と地協選挙区の代議員87名と、特別代議員の7名が参加しました。

その後JR総連から提起された「経過報告」と「活動方針(案)」

を巡って、20名の代議員と特別代議員から18春闘の取り組みや組織強化の報告などの発言がありました。

特徴的な発言は、JR貨物労組が19年振りのベースアップを獲得し、組合員が喜んでる職場の旨や、JR総連の温かい支援を受けながらJR西労の若い組合員が、更衣時間を労働時間に組み入れる取り組みを行って、心から労働運動をしていると美談したという発言等でした。

その一方でJR東労組からは、18春闘で大量脱退を招いてしまい、組合員や関係者に迷惑をかけた事を謝罪し、今後の職場の組合員の声を聞きながら労働関係の再構築に向けて取り組む決意などの表明がありました。

また大会の席上で、JR東労組とJR西労の4名の組合員が

「JR総連や地協の役員を連続して10年、また断続通算して15年勤めた」として表彰を受けました。

また今年の大大会役員改選の年であり、高木副委員長が勇退され、新しく田城郁氏が副委員長に就任しました。

新役員体制

委員長	榎本 一夫	(JR北海道労組)
副委員長	田城 郁	(JR東労組)
書記長	柳 明則	(JR東労組)
執行委員	八幡 直文	(JR北海道労組)
"	熊谷 茂	(JR東労組)
"	山田 知	(JR東労組)
"	淵上 利和	(JR東海労)
"	田村 豊	(JR西労)
"	永島 守	(JR貨物労組)

退職者連合通信

連合中央メーデーに退職者連合も参加

爽やかに晴れ渡った連休初日の4月28日、都内の代々木公園で「第89回メーデー中央大会」が開催され、4万人(主催者発表)の労働者や市民が参加しました。この中央大会には、日本退職者連合から527人が参加しました。またJR総連OB連絡会からはJR貨物労組や東労組のOB会員20名が参加しました。

メーデー中央大会は「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう!働く者のために働き方改革を進め、すべての仲間と結集しよう!」をスローガンにして開催され、主催者の神津甲斐生連合会長は、「18春季生活闘争の底上げの成果を拡大し、全ての働く者の処遇改善に繋げよう」と呼び掛けました。

その後来賓として招かれた加藤厚生労働大臣と小池東京都知事から挨拶を受けた後、福祉事業団体や日本退職者連合の人見会長が紹介されました。なお今年には政党からの挨拶は無く、一抹の寂しさを感じました。

引き続き来春大学を卒業する法政大の学生が、「私の訴え」を行ない、被災地福島県のNPO法人の代表が「活動報告」をしました。

最後に「真に働く者のための働き方改革を実現し、誰もが健やかで安心して働き続けられる社会を今こそ創ろう!」のメーデー宣言が採択されました。



国会請願で氣勢を上げるデモ参加者

「カジノ解禁推進法」の廃止で 退職者連合が国会請願を行う

ゴールデンウィークが終わった5月9日、日本退職者連合は日弁連や中央労福協、消費者団体と共に、安倍政権が強引に進めている「カジノ解禁推進法」の廃止を求めて国会請願行動を行いました。

この国会請願行動には全体で250名の人達が参加し、その内180名は日本退職者連合からの参加者でした。JR総連OB連絡会からは、JR貨物労組と東労組のOB会員が10名参加しました。

朝から小雨模様の日、午前11時30分に東京・日比谷公園の霞門前に集まった参加者は、日弁連の太田副会長から挨拶を受けた後、12時から行動を開始し、衆参両院の議員面会所までデモ行進をして、立憲民主党や国民民主党、社民党、自由党、共産党の各政党がこの請願を受け付けました。

この行動に参加した人達は、各政党の議員と共に小雨の上がった大空に向かって、「カジノ解禁推進法の廃止まで頑張ろう」と力強く拳を振り上げました。

日本退職者連合 第22回定期総会のお知らせ

- ◇とき 2018年7月12日(木) 9時30分
- ◇ばしょ 連合会館2階大会議室
- ◇代議員 武川 隆二(JR北海道労組OB会)
奥山 光昭(JR東労組OB会)
伊藤 義男(JR東労組OB会)
福島 一三(JR東海労OB会)
中村 靖治(JR貨物労組OB会)

JR総連OB連絡会・各単組OB会からの報告
《JR貨物労組OB会より》

闘いの伝承は、ユニオンスクールで！

只今OB会結成20周年を祝う定期総会を準備中

OB減少傾向に危機意識

JR貨物労組OB会は現在1270名の会員を有しています。この単組も同じ悩みを持っていると思いますが、JR貨物労組OB会も会員の高齢化とOB会加入の対象者が少なく、今後10年間位減少傾向が続くことになりま

す。そこで全国OB会は危機意識を持って、現職と各地本OB会にも格段の協力を得て、OB会員の拡大に全力で取り組んで欲しいことをお願いしています。

ところで、国鉄時代の貨物輸送は赤字の元凶とも言われ、難産の末にやっとJR貨物会社が発足しました。発足

闘いに向かう平成採煤員

当時から「すべ潰れる会社」などと呼ばれながら、長年の労使の弛まぬ努力の結果、やっと30年目にして鉄道事業部門が黒字を經常することができました。当時を知る人は、誰もが信じられないことでした。

ことでもあり、鉄道貨物輸送の生産拠点である職場は慢性的な欠員で、鉄道貨物固有の技術継承が置き去りにされています。また、待遇や労働環境などに不満を持つ組合員の若年退職が後を絶たないなど、切実な問題も山積んでいます。

レクを楽しむ、現役と手習も

現在のJR貨物労組の役員のお多くは平成採用者で構成され、課題が多くある中で会社との関係を軸に、鉄道輸送の基盤である安全・安定輸送を確保しながら職場に山積する諸課題に立ち向かっています。

記念総会に向け奮闘中

JR貨物労組OB会は、今年で発足して20年が経過し、今年の全国OB会定期総会が、20周年記念総会として6月4〜5日に東京の大橋会館で開催されることになりました。この総会にはOB会設立に関わった方々や、歴代の本部OB会長などを招待し地味ながらも盛大に開催したいと思

い、そのための準備「ロンパ」奮闘中です。

しかし、黒字は会社が相当無理した